

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.79 2017年10月15日発行
 川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369
 ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

第20回定期総会を開催しました

文化の仲間 事務局 山木 健介

「京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間」第20回定期総会を9月24日(日)にスペース京浜(京浜協同劇団稽古場)で開催しました。

開催しなかった年があるので結成から21年目になります。

今年1月15日(日)に地域の子供たちを集めて「第10回お正月お楽しみ会」を開催しましたが、第1回は2003年1月19日(日)に開催しています。地域の人たちが気軽に劇団に来てくれるようにするにはどうするか? 子どもを集めれば親や祖父母も一緒に来てくれるだろう。ということで、子供向けだが親子で楽しめる、腹話術・マジック・輪投げ大会などの「お楽しみ会」を参加無料で開催してきました。小学校の門前や地域にチラシを配っていましたが、今年からさらにチラシの新聞折り込みも始めました。劇団で演劇の公演の他にもこんなことをやっていますと広くPRし、少しでも劇団に関心を持ってもらうために活動してきました。

劇団の屋上を活用して、「匂をたのしむ夕べ」や「花火納涼会」を開催してきました。「川崎郷土・市民劇」や「かわさき演劇まつり」の稽古場として劇団を使っているの、市民劇や演劇まつりの出演者スタッフにも参加してもらい交流の場になってきました。

また年間4回ぐらい会報を発行し、情報を発信して

きました。

総会時に特別企画としてゲストを招いて講演をお願いしたりミニコンサートを開催したりしてきました。今回のゲストは照明家の横田元一郎さんでしたが、今までのゲストは、たまこ&ちづるコンサート、安達元彦さんの音楽会、野末悦子さん、新谷昌之さん、須根芳太郎さん、塩川祥子さん、中村雅雄さん、篠原久美子さん、濱田重行さん、須田輪太郎さん、よしだはじめさん、小川雅功さん、藤井康雄さんの講演とアイテムラティさんの演奏、岡田京子さんと歌おう、青木好文さん、と多彩なゲストをお呼びしてきました。

今回の総会の発言で、会員の紹介を載せたりして会報の紙面の充実をさらにはかってほしい、子供向けだけでなくシニア向けのお楽しみ会の検討などの要望がありました。

総会で新年度の役員(世話人)が以下のとおり選出されました。岡本明男さんは初、他の人は再任です。(以下、敬称略)

二村柊子・高橋明義・藤崎秀子(以上代表) 山木健介・須田セツ子・西川日女子(以上事務局) 小野寺晃・佐藤友吉・常名孝央、橋本教善、岡本明男の11名です。

1年間よろしくお願ひします。



照明そのものが芝居をすることがある…

岡本 明男

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間の第20回定期総会が2017年9月24日(日)に行われた。総会のあと、午後3時から照明家・横田元一郎さんの記念講演があった。

横田さんは、はじめに、劇団員佐藤張二さんの元気なころのことを話した。劇団の芝居で照明を担当した際、横田さんは、「…つい観客の目となってしまう、早く暗転から明るくしようと、照明をつけたらまだ舞台は転回しておらず、張二さんに『怒られた』』と思い出話をしてから講演を始めた。

横田さんは、近くは「南武線物語」、過去には「金冠のイエス」・「コーカサスの…」などの芝居の照明を担当された。

舞台は、①暗転のうちに、大道具、小道具などを入れ替えて芝居のシーンを展開する。②実際にあるような家そのものを舞台上に、映画のセットと同じものをつくり芝居を続ける。このように主に2つの芝居転回がある。照明のポイントは、照明の光源がなんなのか。例えばローソク・夕日・朝日・灯火など。そしてその灯火は蛍光灯か。戦後間もないころはほとんどの家は白熱電球であり、お金持ちの家は蛍光灯であった。しかし、今は高級なレストランなどでは、むしろ、白熱電球が多い。電球の色は寒色、暖色がある。たとえばマッチ売りの少女は「マッチをすると心から暖かく感ずるように」照明で演出する。

光源の色で舞台を演出する。夜空の月の色で、寒くしたり赤くしたり…。

俳優の顔と衣装に光をあてて、「あなたを愛しています」のセリフを光りによって、浮き立たせる。太陽は朝、昼と夕方とその光源の色合いはどんどん変わっていく。

横田さんの話を聞きながら、私は国鉄新鶴見操車場照明のことを思い出した。水銀灯のライトは青白く、昼夜わかたず動き続ける国鉄の操車場を照らし出す。国鉄労働者の青い作業服を生き生きと浮き上がら



せ、熱くも悲しい鉄道員の物語が展開していた。

仕事。全国からやってくる貨物列車は分解され、方向別に組み直され、列車は仕立てられる。貨車に飛び乗る青年の姿は光のなかで黒いシルエットになりアニメーションのよう。

闘いがあった。働くものの要求掲げた労働者の群…。違法ストと、これを阻もうと警官隊はジュラルミンの盾と腰のこん棒姿。俺たちの青い作業服=なっぱ服は、青い乱闘服と対峙している。緊迫した様子は投光器の中で増幅される。組合は分裂させられていた、大きな邪悪な力によって、樹液ひたたる生木は引き裂かれていた。



芦ノ湖で開催された、平和友好祭で、「地下足袋にかけた青春」は上演された。このとき私は新鶴見操車場の助役の役に扮した。一度でいいから悪役をやりたいかった。にわか造りの舞台上、ここまで演じていいのかと思いながら、どうしようもない悪徳助役になった。

キャンプファイヤーの炎が揺らぐ中でそれは湖面に映し出された。

慟哭の場面。北海道から転勤してきたばかりの2人の青年は、夜間作業の中で命を奪われた。貨車による開放骨折=轢死だった。投光器に照らし出され、操車場は蒼白く浮き上がり、これを悼んで動きを止めた。絶望の漆黒は永遠に続くように思えたとき、ようやく白みはじめ、操車場は、水色に染まり、新しい朝がいや応もなく始まっていった。

国鉄労働者は仕事にこそ誇りをもち、俺たちは幾多の照明の中で生き抜いてきた。

(国鉄横浜うたう会、文化の仲間世話人)

第13回全日本演劇フェスティバルに参加して

(2017.8.18 ~ 8.20)

若い！と言われました

稲垣 美恵子

この度、全日本演劇会議主催のフェスティバルに参加しました。前回は3年前、福島で「震災復興」を願い開催されたのです。このとき我が劇団では「空の村号」、それと関東ブロックの女優陣による「貧乏物語」を上演しました。そういえば、97年の神戸のときは「震災復興支援」ということで、「権兵衛太鼓」で仮設住宅を訪問したことが思い出されます。

今回は、熱い芝居を観て、もっともっと熱くなろうと、8月18日から20日、“熱い”大阪で開催されました。さすが熱い大阪からは、作品3本の上演とシンポジウムや作品ごとの評価会を開くなど、時間も気配りされ、熱い思いが伝わってまいりました。



初日夕刻より、劇団きづがわの作品「挽歌」が上演されました。

この作品は、東日本大震災から5年、原発の町、大熊町から会津若松市に避難した短歌サークルに集う人々とホームレス歌人が織りなすドラマでした。出演者は適材適所だし、ホームレス歌人の役者さんは熟練した方

でしたが、舞台空間が広く見え過ぎて充実感が感じられないのです。私は明日の舞台「めくらぶんど」が恐ろしく怖くなりました。

宿舎のホテルの近くに「曾根崎お初天神」があると知り、“一人語り劇場”での上演「曾根崎心中」が予定されているので、その参考になればと思い、2日目の朝、出かけました。そこは、お染め久松の心中に至る絵図が奉納され、花々には打水がされ、手入れの行き届いた神社でした。暑い大阪で一瞬涼気を味わった思いがしました。そして午後、関西芸座による「戦争童話集」野坂昭如作です。戦後72年、しかし、再び戦争の道を許してはいけないと若者たちが舞台いっぱいに演じている。風船爆弾を作るために集められた学生たちでした。風船爆弾といえば我が集団の黒参（黒沢参吉）の青春時代を思い出しますね。悲惨な体験なのに奥様との出会いがあったことなど、黒参を感じながら観ていました。

そして、いよいよ「めくらぶんど」です。昨夜のこ



ともあって、緊張度最高！ 落ち着いて本を読み返す時間もなく、始まってしまった。笑いも聞こえてこない。30年前の「貧の意地」のときは、始まったとたんに笑いがすごく、セリフを忘れてしまったほどでした。それからの私は、大阪人はよく笑う人種だと決めていたのですが……。評価会によると、女房役の最初の出が良くない！ 若い！ と言われました。その方は「めくらぶんど」を熟知されている方だと伺いました。

「めくらぶんど」が終わって、劇団大阪の稽古場で交流会がありました。私たちは舞台の片付けのあとでしたので宴も盛り上がり、テーブルの上の食べ物は出前を追加するほどでした。劇団紹介のあと、劇団山形の方と親しく話をしていると、福島でお会いした大阪の女優さんが私の目の前においでになるではないか。「めくらぶんど」を大阪で35歳と65歳で2度の上演をしたときのお話でした。「枯れろ、枯れろ！」と繰り返し言われ続けた演出の言葉、そして、メイクした顔は「真っ黒だった」と。それは、自分の年に甘んじて演じてしまった私への忠告なのだと、私は思いました。

このたび劇団からは、客演を含む11人の参加でしたが、猛暑の中を荷物の運搬で東京芸術座の若者2人が奮闘してくださいました。また、皆様にはカンパを頂戴いたしましてありがとうございました。御礼申し上げます。



北海道演劇祭に行ってきました

しろたに まもる

9月15日から18日までの4日間、江別市で開かれた北海道演劇祭に行ってきました。そこは「劇団ドラマシアターども」が自らの稽古場を持って頑張っているの、一度ぜひ行きたいと思っていた所なのです。それで、腹話術のゴローちゃんで友情出演したいと申し入れ、OKとなったのでした。全り演議長としての役割も担っての参加でした。

北海道演劇祭は2年に1回の割合で開かれているので、今年27回ということは54年間続けられていることとなります。大変なことです。北海道演劇集団(15集団)が主催、毎回北海道内の劇団が持ち回りで受け入れ団体となって続けてきたのです。私もこれまで7回くらい、講師や出演者、観客として参加しています。

北海道演劇祭の魅力は、創作劇が多いことです。開拓の苦勞、炭鉱のこと、アイヌ問題など北海道ならではの問題を劇化した作品が多いのです。

今回の出し物は、9団体で全11作品。

- ①ドラマシアターども『トド山第三分教場 パートⅢ 一ヨッコの場合』安念智康作(創作)
- ②ドラマシアターども 同上作品
- ③しろたにまもる「ゴローちゃんがやってくる」



- ④劇団風の子北海道 ダンボール劇場『ちいさいおうち』
- ⑤座・れら『招待されなかつた客』別役実作
- ⑥劇団新劇場 短編2作品 『祝言』渋谷健一作(創作) 『空き地にて』チョン義信作
- ⑦劇団海鳴り『これからごはん』帯広柏葉高校演劇部作(創作)
- ⑧劇団風の子北海道 紙芝居『子どもに伝えたい話』(創作)
- ⑨劇団「川」『傷だらけの男たち』春日功夫作(創作)
- ⑩劇団みずなら『レフトアウト』本宮尚孝作(創作)
- ⑪釧路演劇集団『赤い陣羽織』木下順二作

今回も上演された11本のうち8作品が創作劇でした。私は、次の日から長野の上田市での公演と研修会が入っていたため、2日間しか居られず4作品しか見られませんでした。が、「ドラマシアターども」の創作劇は心に残りました。

地元江別出身の劇団代表、安念智康の第三分教場シリーズの一つで、今回は東京大空襲からの疎開、樺太や満州からの引揚など戦争の傷跡をかかえた子どもたちの成長を描いた戦後開拓史ともいえる作品です。大人が子どもを演じるのですが、年齢差が気にならなくなるくらい、作品に入っていたのです。台風が近づいている中なのに、300くらいの客席は2回とも立ち見が出るほど超満員。地域の観客に愛されている姿をじかに見る事ができました。



城谷さんが腹話術入門書を刊行

劇団員の城谷護(腹話術の芸名:しろたにまもる)さんが、長年あたためてきた企画として、このたび、腹話術の入門書を自費出版で刊行しました。

タイトルは『腹話術でいこう!』全2巻に実技のDVDがついています。第1巻は、「ゴローちゃんの旅日記」と題し、これまで全国をめぐる城谷さんとゴローちゃんの日々の記録です。第2巻は、「腹話術の基礎講座と台本集」です。腹話術の基本をイラスト入りで分かりやすく解説しています。また、54本もの台本を一挙掲載。本を買った人は、この台本を自由に使うことが認められています。

全2巻とDVDのセットで3800円です。すでに当初作った300部はほとんど売り切れ、増刷の準備に取り掛かっているそうです。

お問い合わせは城谷さんまで。(電話 044-544-3737)



連載 「京浜協同劇団」と私——第2回

新しい活動の中での出会い

岡田 京子

●日本音楽舞踊会議（以下「音舞会」）のこと

「音舞会」が活躍したこの時代は、ずっと米国による北ベトナム爆撃が続いていました。安達元彦も、それに対する行動を求めて入会してきました。そして「音舞会」は「アメリカの北爆に反対する大音楽会」を計画しました。その当時の知事・美濃部亮吉氏の事務所、この会へのメッセージをもらいに行ったことなど、懐かしく思い出します。

当時「日本ジャズメン会議」というのもできていて、こういう人たちと連携して会を成功させた唯一の音楽団体が「音舞会」だったと言えるでしょう。その中で1968年に、安達と私は一緒になるのです。

●音楽活動の停滞

しかしその音舞会もその後、「新しい動き」は、徐々に止まっていくように思えました。70年代の高度経済成長期にぶつかっていったのです。演奏家はともかく、作曲の聴衆は次第に減りました。作曲の誰もがそうだったとは言えませんが、そうした中で、私の場合は満州を含む各地を転々とした育ちの中で出会った音楽、一方安達は、庶民文化が開かれている関西の地の育ちという自分を振り返る中で、「誰に向かって何を言っていけばいいのか」を考えざるをえなかったのだと思います。

●新しい活動

でもそのことを2人で話し合ったわけではありません。偶然同じことに出会い、それぞれのやり方で関わっ

ていったことが3つあります。

1つは、うたの店「十一時間」（後述）との出会い。

2つめは、笠木透さんの「フィールドフォーク」との出会い。

もう1つが、これと並行していますが「演劇」との出会いです。私は「統一劇場」（後、「現代座」）、安達は「京浜協同劇団」なのでした。このことを書いていく前に、お断りしておかなければならないのは、同じように見えても、安達と私は1点、大変な違いの時期があることです。

●安達が音楽界の作品を書かなくなった理由

安達は1963年、国立（くにたち）音楽大学を中退して作曲した「弦楽器の協奏曲」という最初の作品が「音楽之友社」50周年記念行事だった懸賞募集に入賞していて、その作品が国際現代音楽協会の主催でスペインで（スペインの演奏家によって）演奏され、なおかつ、NHKの「現代日本の新しい音楽を紹介する」という番組で放送されているのです。だから彼が「音舞会」に来た時、「なんて効率のいい男だろう」と言ったものだったのですが、彼は初めて書いた作品がそうになってしまったので、「こんなものか！」とすっかり冷めてしまって、でもその後、何作か書き、なかなかの評価を受けながらも、スッカリ作ることをやめたのでした。で、時々私の耳に入った「岡田京子がダメにしてしまった」という言葉とは、私は全く関係がないことを書いておくことにします。



京浜協同劇団 第91回公演 平成29年度神奈川県演劇フェスティバル参加

作・別役 実／演出・藤井康雄

病 気

上演日程

11月	17金	18土	19日	23祝	24金	25土
11:00		○	○	○		○
15:00		○	○	○		○
19:00	○				○	

料 金 一般 2900円 シニア（70歳以上）2400円
 学生 1500円 ユース（30歳以下）2000円 予約制（日時指定・自由席）

会 場 スペース京浜

問合せ・申込先 京浜協同劇団

〒212-0052 川崎市幸区古市場2-109 専用電話 080-5988-8118

メール：keihinkyoudougekidan@nifty.com TEL 044-511-4951 FAX 044-533-6694

HP：http://www.keihinkyoudougekidan.com

今年で9回目★かわさき演劇講座☆ 『戯曲 de あそぼ!』

京浜協同劇団 河村 はじめ

■ 2017年7月22日～23日（土・日）／於：スペース京浜

夏!と言えば「かわさき演劇まつり」。今年は通算9回目となる演劇講座の年でした。真夏の土日朝10時から夕方5時まで、戯曲を読み、戯曲の「読み方」を学び、グループで稽古し成果を見合った「演劇」どっぶりの2日間、老若男女約30名が古市場の一角に集い『11ぴきのネコ』（井上ひさし作）の世界にあそび戯れました。

今回の講座では、演劇まつり公演へとイメージをむすぶ舞台作りの要素を構成し、タイトル通り〈戯曲〉を中心に据えましたが、選ばれた『11ぴきのネコ』は打ってつけの作品。腹を空かせた11ぴきのネコと老ネコ、つまり12ぴきのネコが「大きな魚のいる湖」の噂を聞いて旅をするお話です。第一日目の午前は、この戯曲の読み合わせでした。担当講師は演劇まつり初参加のAsh（アッシュ）さん（※末尾にプロフィール）。参加者全員が車座になり、時計回りに1台詞ずつ（ト書きは句点まで）のルールで読み進めて行くシンプルなものですが、2時間掛けて読み了えた時は思わず嘆息が漏れました。文化財団理事長もAshさんに声をかけられ、1時間以上読みに熱中する姿が。

いま一人の講師はおなじみ、小山裕嗣さん（演出家）。1日目のウォーミングアップと2日目の即興ワークショップを担当して頂き、寸分の滞りもない！流れて「心身の解放」「集中」のためのゲームを行い、体を動かす内容でした。特に「即興」要素のあるワークは演劇的にとってもエキサイティングな時間です。

こちらもお馴染み、丸尾聡さん（作家・演出家）からは両日にわたり、「戯曲の読み方」レクチャア。2日目にはこの戯曲の全く異なるラストを持つバージョンがあることに触れ（講座で採用したのは後年書かれ

た「決定版」）、旧版のラスト部分を読み、意見を交わしました（紙幅の関係で筋の紹介は割愛）。

そしてグループに分かれての場面稽古と発表。1日目は3講師で3グループを持ち、同じ場面をそれぞれの「流儀」で作った出し物を発表。見事な「棲み分け」で三者三様の特色が光りました。二日目は2グループが異なる場面を発表。（人員が増えたので）ほぼ全役を割り振り、それぞれ対照的な様式ながら、本気で密なアンサンブルを見せていました。



講座終了後の交流会でのこと。今回は年齢層やや「高め」な参加者が特徴でしたが、普段朗読を行なっている人や、若い頃経験したという方に混じって、人生で初めて演劇に足を踏み入れたという60代の男性がご自身の来歴と参加理由を言葉少なに語った後、「(自分の) 何かが変わったと思う」と力を込めて口にされた姿は、胸に来るものがありました。演劇の力を信じたいと、胸に改めて刻んだ此処から、さァ来年の舞台へ！
※ Ashさん：10代の頃からミュージカルカンパニーで海外公演行脚、東京藝大在学中に劇団ク・ナウカの宮城聡（現 SPAC 芸術総監督）に師事、10年前に川崎に拠点を移して演劇活動をされているという女性演出家。劇団カワサキアリス主宰。他に高校演劇部指導、一般人向けに「こすぎナイトキャンパス」で戯曲WS開催。



京浜協同劇団第 91 回公演

「病氣」 立ち稽古開始

京浜協同劇団 岡野 三郎

「病氣」制作部からのニュース、第2弾です。

まずは別件ですが、8月の全日本リアリズム演劇会議の第13回全日本演劇フェスティバル in 大阪(8/18～20)での「めくらぶんど」上演が盛況のうちに無事終了致しましたことをご報告します。壮行会を兼ねて企画下さった「花火を見る会(8/15)」はあいにく雨模様でしたが、応援と多額のカンパを本当に有難うございました。大阪上演の費用として全額有効に使わせていただきました。

さて、「文化の仲間第78号(6/18発行)」で11月の「病氣」公演決定を発表してから3か月半が経ちました。配役が決まり、学習会を行い、上記大阪上演も終了し、9月に入って本格的に稽古を開始いたしました。作成が遅れていたチラシも8月末に届き、いよいよ劇団は創造部門も制作部門も「病氣」公演に向けてエンジンフル回転状態に入りました。チラシもポスターもこれまで以上に広げて行きたいと思えます。

糊沢健さんをお呼びしての8月1日の学習会には文化の仲間からの参加も含めて総勢23名が集いました。糊沢さんの作品解釈の紐解きは絶妙で説得力のあるものでした。医療(制服)に簡単に服従してしまう市民。詭弁、屁理屈、言い訳を駆使する強者による弱者への分かり合いの強制(3.11後の「絆」の安売りなど)。不服従は病気にされ、病気になれば、ある意味許される、等々、示唆に富むものでした。学習会の資料にこんな一説がありました。「人間は病気の痛みを堪えている時が最も退屈しない。そして、自分の病気を人に話すときにこそ優越感に浸れるものだ」と。自分の中で俄然と「病氣」が大きな意味を持ち始めたのでした。なお、「馬鹿」というのも別役によれば一つの病氣らしい。

「病氣」は明るく笑えるコメディではありませんが、冷笑に包まれた暗い感じの舞台にたくありません。観客の笑いを必須のものとわきまえ、ナンセンスの要素も加えて「不条理喜劇」として完成を目指したい。「リアリズム演劇」一筋で来た、これまでの京浜本公演の芝居からウィングを広げて行きたいのです。劇場では大いに笑ってもらい、何を考えるかはお客様

にお任せする。そのためには絶妙なテンポ感のある演技や音楽が必要です。内容は十二分に重く、現代社会に蔓延る病巣を鋭く告発するものでもあります。残酷でもあり、可笑しくもあるのです。台詞にばら撒かれている不条理をそのまま観客に届けたいと思うのです。

劇団の両輪は創造と制作です。劇団の集客手段の第一は劇団員による知友への宣伝活動ですが、昨今の劇団員の高齢化や病氣休団によるチケット販売力の低下によって集客力が急激に低下しています。「病氣」の集客も従来の方法を基本に、コリッチやカンフェティなどの媒体も利用して、劇団と繋がっていない潜在する別役ファンや演劇ファンにも販路を広げていく必要があります。文化の仲間の皆さんにも是非それらのページを覗き、知友に宣伝して下さいれば幸いです。制作の何たるかを分かっていない新米担当が制作を司る不条理を、多くの関係者の力で乗り越えて行きたいと思えます。応援を宜しくお願い致します。

*出演者一覧(一部ダブルキャストです)

役名	11月17・18・19日	23・24・25日
男1	護柔一	
男2	柳沢芳信	田中耕一
男3(医者)	岡野三郎	
男4	河村はじめ	
男5	田中耕一	坂木フミ
男6	城谷護(18日、11時のみ藤井康雄)	
男7(巡査)	大谷敏行	
女1(看護婦)	瀬谷やほこ	稲垣美恵子
女2	宮原喜美子	
神様	坂木フミ	若菜とき子



「……いやだって言うのにチューシャさせられて、ベッドに寝かされて……」

◎文化の仲間通信◎

◆ブラスの祭典 シエナ BEST コンサート

日程 10月29日(日) 14:00開演
会場 ミューザ川崎シンフォニーホール
料金 S席5500円 A席4500円 B席3500円 学生席2500円
出演 田中祐子指揮 シエナ・ウィンド・オーケストラ
演目 第1部(POPS)《THE 刑事》より ルパン三世 '80、スパイ大作戦ほか 《スーパー・サウンド・コレクション》より 崖の上のポニョほか 《THE テーマ》より HERO～半沢直樹～ほか 第2部(CLASSIC)《ブラスの祭典3》より 吹奏楽のための第1組曲(ホルスト)ほか 《ブラスの祭典2》より エルザの大聖堂への入場(ワーグナー)ほか

問合せ・申込み チケットスペース 03-3234-9999
オーケストラ事務局 03-3357-4870
(平日10:00～18:00)

◆青年劇場 小劇場企画 No.22

「事件」という名の事件

日程 11月2日～12日
(14:00 または 19:00 開演) 詳細はお問い合わせください
会場 青年劇場スタジオ結[YUI](東京メトロ丸ノ内線 新宿御苑前駅 出口1・3より徒歩2分)
作・演出 ふじたあさや/出演 葛西和雄・藤木久美子・松戸聡ほか

料金 一般4500円 U30(30歳以下)3000円
中高生シート1000円 日時指定・自由席
横浜事件——戦時下最大の言論弾圧事件は、こうして作られた! 事件のないところに事件を作った男たちの共謀! 今日新宿は1944年になる。ふじたあさや氏の書き下ろしで治安維持法下最大の冤罪事件に挑む!

問合せ・申込み 青年劇場 03-3352-6922
ticket@seinengeki.co.jp

◆歌舞劇団田楽座 東京公演 日本まつり芸能絵巻

日程 12月3日(日) 18:30開演
会場 かめりあ リリオホール(JR 亀有駅前 リリオ館9階)
料金 大人4000円 小人(3歳～高校生)2500円
こんなニッポン見たことない。見たことないのに懐かしい。

問合せ・申込み 田楽座 0265-78-3423

◆日本フィルハーモニー 特別演奏会

第九交響曲

日程 12月23日 18:00開演(開場は開演50分前)
会場 横浜みなとみらいホール
演目 バッハ トッカータとフーガ二短調 BWV565 ほか/ベートーヴェン 交響曲第9番二短調 op.125 《合唱》
指揮 小林研一郎/オルガン 石丸由佳/ソプラノ 増田のり子/アルト 林美智子/テノール 錦織健/バリトン ジョン・ハオ

料金 S席9000円 A席7500円 B席7000円
C席6000円 Ys席(25歳以下)3500円
他の会場、日程もありますのでお問い合わせください。

問合せ・申込み 日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911
日本フィル e チケット http://www.japanphil.or.jp

◆劇団銅鑼公演 ハンナのかばん

日程 12月26日(火)(15:00・19:00開演)
会場 北とびあつつじホール

(JR 京浜東北線 王子駅北口 徒歩2分)

主催 劇団銅鑼・こども劇場いたばし・きたくこども劇場
脚本 いずみ凛/演出 モニ・ヨセフ(アッコ・シアター・センター芸術監督/イスラエル)/通訳・翻訳・演出助手 大谷賢治郎/出演 佐藤文雄・高原瑞季・郡司智子・佐藤響子ほか

料金 全席4500円(日時指定・当日指定席切替)

「ホロコースト」—ナチス・ドイツによる虐殺—の中で、ヨーロッパに暮らしていた多くの「ユダヤ人」が殺されました。その数は600万人。そのうち、150万人は子どもでした。13歳のハンナもその1人でした。60年の年月をこえて日本に届いたメッセージ。ハンナからあなたに、今。

問合せ・申込み 劇団銅鑼 03-3937-1101
(平日10時～18時)

info@gekidandora.com

◆生きる～2018 New Year 若い命を支えるコンサート

日程 2018年1月14日(日) 15:00開演
会場 横浜みなとみらいホール
出演 下野竜也(指揮) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団/徳永二男(バイオリン)/三浦文彰(バイオリン)
曲目 2つのバイオリンのための協奏曲二短調(バッハ)・序奏とロンド・カプリツィオーソ(サンサーンス)・ツィガース(ラヴェル)ほか

料金 6500円(全席指定) 舞台後方P席4000円
小児がん征圧キャンペーン——病と闘う子ども励ますコンサートが、横浜の地で11回目を迎えます。

申込み 神奈川芸術協会 045-453-5080
問合せ 毎日新聞社事業本部 03-3212-0804

訃報

劇団員の渡辺高志さんが、病氣療養中のところ、10月4日逝去されました。67歳でした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

■文化の仲間ギャラリー■

大谷 敏行②

「厳選」大谷敏行の川柳塾
「印象操作」新語大賞一番手
二〇一七年六月二五日・赤旗日曜版掲載
オスプレイ安全乗せて落ちてくる
二〇一七年九月三日・赤旗日曜版掲載
籠池と小池に足元掬われる
安倍政治
友逝きし独楽独去無一随
渡辺高志さん逝去
度し難し正気の沙汰の銃社会
アメリカ最悪のテロ